“バックヤード”における非展示個体の情報開示と施設改善の取り組み

○武田康祐[1)]，鏡味芳宏[1)]，奥村文彦[1)]，田中ちぐさ[1)]，廣澤麻里[1) 2)]，山田将也[1)]，石田崇斗[1)]，藤森唯[1)]，阿野隆平[1)]，北原愛子[1) 2)]
（[1)] 公益財団法人日本モンキーセンター，[2)]京都大学霊長類研究所）

“バックヤード”とは？

・動物病院に併設した非公開エリアのことで、日本モンキーセンターでは独自に“**バックヤード**”と呼んでいる。
・単独飼育を減らすために、個体同士の相性を見ながら**ペアリング**・**群れづくり**をおこなっている。
・**さまざまな事情**でバックヤードで霊長類たちがくらしている。

- 普段は展示をしているが病気やケガで一時的に入院
- 群れでの生活が困難
- 通常の飼育施設でくらすことが難しい
- 展示エリアに充分な飼育スペースがない

このような事情を隠さず、さまざまな取り組みをSNSやブログ、ホームページの特設ページなどで公開し、積極的に**情報発信**をおこなっている。

霊長類とは？

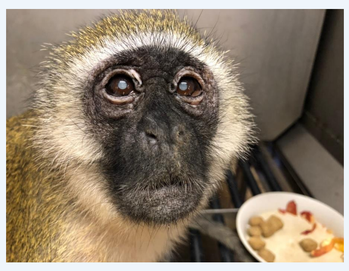
・ヒトを含むサルのなかまのことで現在約450種に分類されている。
・**寿命が長い**種が多く、ニホンザルで30年以上、チンパンジーでは60年以上生きることもある。
→何があっても長く付き合う覚悟が必要！
・**社会性**（ペアや、群れなどを形成）をもつ種が多い。
→できるだけ単独飼育を減らしたい！

情報発信の効果

・バックヤードの個体宛に普段は与えられない多種多様な食材をいただくことがある。
・“Amazonほしい物リスト”の公開により、環境エンリッチメントとして使える道具（例：フィーダーとしても使える人工芝）やケア用品（例：ペットシーツ、ゲルクッション）などさまざまなものを寄附していただいている。
・クラウドファンディングをおこない、多額の寄附金をいただいた（後述）。

現在“バックヤード”でくらしている個体の一例

糖尿病＆目が見えない＆高齢個体

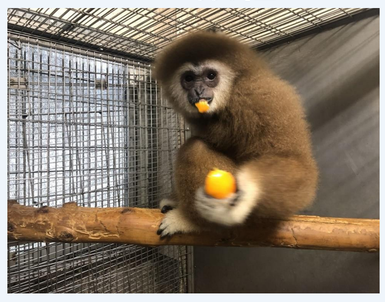


ベルベットモンキー♀シン

糖尿病で体調をくずしたばかりの頃は、輸血やインスリンの注射をおこなっていたが、現在は薬と食事制限で体調を維持できるまでに回復。

バリアフリーの施設がなく、広くはない入院室の一室で過ごしている。

鼠経ヘルニア＆飼育スペースの問題



シロテテナガザル♂イレブン

自然哺育のためコミュニケーションはしっかりとれるが、展示エリアにスペースがなくうまれてからずっとバックヤードでくらしている。
重度ではないが鼠経ヘルニアの持病を持つ。

運動するのに十分な空間ではないため、限られた運動しかできない。

過去“バックヤード”でくらしていた個体の一例

高齢個体の身体麻痺

アヌビスヒヒ♂ナオト

徐々に進行していく手足の身体麻痺。
床ずれを防ぐために毎日何度も体位の変換が必要だった。
長期間の介護の末、老衰で死亡。

アヌビスヒヒに対して十分な大きさのケージがなく、体位変換時に噛まれる可能性があり、とても危険だった。
高齢個体が増えているため、今後のためにも**安全**に**介護**をおこなえる施設をつくりたい。

骨折の治療

シロテテナガザル♂ジャス

右腕を骨折。
1年以上の入院生活を終えて退院するも、すぐに別の箇所を骨折。
2回目の骨折は、入院生活中の自然光不足や運動不足により、運動量の増加に骨が耐えられなかったからではないかと考えられている。

現在は骨折も治り、ギボンハウス（展示施設）でくらしている。
個体の状態に応じて広さを変えられる**リハビリ施設**や**太陽の光**を浴びられる施設をつくりたい。

このようなさまざまな経験から・・・

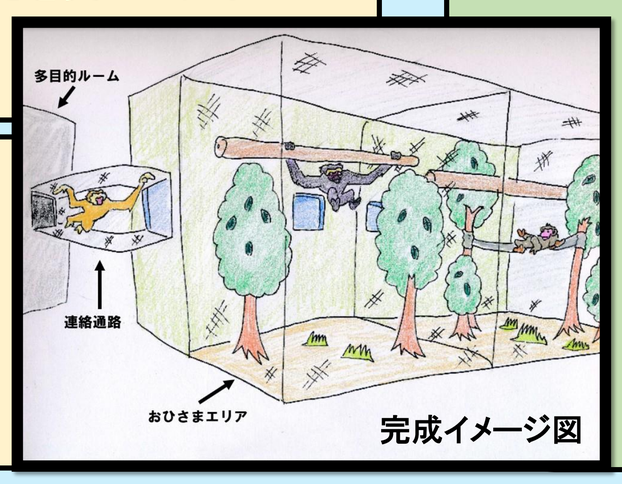
多目的ルーム と おひさまエリア をつくりたい！

多目的ルーム（屋内施設）

・障害をもった動物の**介護**もできる施設
・個体の**健康状態**、**回復状態**に応じて広さや高さを変えられる
・あらたな**群れづくり**のための**お見合い**が可能
・おひさまエリアと連絡通路でつながっている

おひさまエリア（屋外施設）

・多目的ルームから伸びる屋外運動場
・**自然光**を浴びられる
・**群れづくり**のための**お見合い**が可能



完成イメージ図

資金が足りないため
クラウドファンディングを実施

募集期間　第1弾　2019/7/21 ～2019/12/31
　　第2弾　2020/10/8～2020/10/31

第1弾で集まった金額をもとに多目的ルームをつくることが決まり、第2弾では、おひさまエリアを作るために追加募集をおこなった。

目標金額を達成し、
どちらも来春完成予定！

バックヤードの今後の展望

- 老齢個体や障害個体、入院個体の**ケア**をより充実させていきたい。
- 将来的にバックヤードでも**教育活動**ができるようにしたい。
- 完成前と完成後の行動変化などといった**科学的評価**をおこないたい。
- 単独飼育個体を減らすための**群れづくり**や**環境エンリッチメント**をより積極的におこなっていきたい。
- 限られたスペースでの生活を余儀なくされている個体がまだいるため、バックヤード以外のエリアとも連携し少しでも広いスペースで生活できるように**環境整備**をおこなっていきたい。

謝辞

クラウドファンディングの企画および成功させるために尽力いただいたスタッフの皆様、クラウドファンディング等でご支援をくださった皆様、今回の取り組みを評価してくださった市民ZOOネットワークの皆様をはじめ、多くの方々に感謝申し上げます。